



## ZF、自動運転の開発を多面的に実施

- 新たなパートナーシップにより専門技術を増強
- 3D環境マッピングを用いて、既存の360度全周囲検知を強化をサポート
- 出口走行機能を含め、高速道路運転機能を強化

ZFは、モビリティの未来を形成する「見て、考えて、動かす」次世代車両の実現に向け、探求を続けています。新たなパートナーシップと自社で培った幅広い専門技術を通じ、未来に向けた先端運転支援機能および、より高度な自動運転を実現する各種の機能を開発しています。

ZF CEOのシュテファン・ゾンマー博士は、次のように述べています。「半導体ライダー開発企業、Ibeo社株式の40パーセントを取得。世界初の人工知能型電子制御ユニット、ProAI開発に関するNvidia社との提携。超高周波数レーダーのメーカー、Astyx社株式の45パーセントを取得など、昨年ZFは数多くの企業との提携を開始しました。直近では、安全性を最重要目標とした未来型コックピット開発を目指し、内装部品大手のFaureciaとのパートナーシップを締結しました。」

これらに加え、ZFのアドバンスエンジニアリング部門では車両環境の3D表示を可能にする高解像度レーダーの開発や、レーザーとの融合技術の開発も行っています。これにより、「Tri-Cam」3眼カメラとAC2000レーダーを組み合わせた既存の前方・側方検知システム等の360度全周囲表示機能が強化されます。

現状では、引き続きレベル2および3の自動運転機能開発に注力しています。例えば、高速道路運転支援システムに自動出口走行支援等の新機能を加え、システムの精緻化と強化を継続しています。この出口走行支援機能は、高速道路を降りる際にドライバーが出口車線を選択すると、車線変更が自動で行われるものです。

GPSを用いて地図との連動が可能であり、タッチスクリーン上のボタン操作で出口車線を選択すれば、システムが判断し、自動操縦を行います。

「人が輸送手段を選ぶ際には安心と安全が基準となるため、自動化は安全性を確保しながら進めなければなりません。したがって、当社は新技術の推進は公道での実証済みシステムと調和させる形で進めています。この方針に基づき、産業用途全般を含む全輸送手段利用者に恩恵をもたらす様な新



**PRESSEINFORMATION**  
**PRESS INFORMATION**

2017年6月23日 ( 金 ) 2/2ページ

しい機能の強化、試験、検証に取り組みます。」ZFにおける自動化の取り組みについて、ゾンマーはこのようにまとめています。

お問い合わせ:

中村 典子, コーポレートコミュニケーション、ZFジャパン

phone: +81 45 670 6980, e-mail: [noriko.nakamura@zf.com](mailto:noriko.nakamura@zf.com)

**Robert Buchmeier**, Technology and Product Communications,

Tel.: +49 7541 77-2488, e-mail: [robert.buchmeier@zf.com](mailto:robert.buchmeier@zf.com)

ZFは駆動系、シャシ・テクノロジーおよびアクティブ&パッシブ・セーフティ・テクノロジーの分野で世界をリードする自動車関連部品のグローバル・サプライヤーです。総従業員数はおよそ13万7000人、世界40カ国に230の生産拠点を展開しています。2016年のグループ総売上は約352億ユーロです。革新的テクノロジーのデザインとエンジニアリングによる事業の成功を継続させるため、ZFでは毎年、総売上の約6パーセントを研究開発に投資しています。また、ZFは、世界最大の自動車サプライヤーの1社です。

ZFは、くるまの「見て、考えて、動かす(see, think, act)」を可能にします。その技術により、ZFはビジョン・ゼロ(交通事故ゼロ)やエミッションフリーのモビリティの世界に向けて取り組んでいます。幅広いポートフォリオを持ち、自動車、商用車、および産業技術分野におけるモビリティとサービスを進化させていきます。

プレス資料の詳細や写真については、[www.zf.com](http://www.zf.com)をご参照ください。